

つないでる？子どもの育ちと学び
～幼小の円滑な接続を目指して～

Part II

子どもの育ちと学びをつなぐ
スタートカリキュラムを
デザインしよう！！



1 基本的な考え方

2 各学校で行うスタートカリキュラムのデザイン

3 単元の構成と週案への位置付け

4 参考資料



日本のおんせん県おいた 味力も満載

令和2年7月
大分県教育庁義務教育課



子どもの育ちと学びをつなぐ スタートカリキュラムを デザインしよう！！



構成

1 基本的な考え方

2 各学校で行うスタートカリキュラムのデザイン

- (1) 幼児の発達や学びを理解する
- (2) 期待する児童の姿を共有する
- (3) 保護者へ説明する

3 単元の構成と週案への位置付け

- (1) 単元の構成と配列
- (2) 単元配列表の作成
- (3) 週の計画と時間配分
- (4) 令和3年度の週の計画（例）

4 参考資料

- (1) 幼児期の終わりまでに育って欲しい姿（10の姿）
- (2) スタートカリキュラムのチェックリスト
- (3) 引用・参考資料

1 基本的な考え方



まずは、学習指導要領総則を確認しましょう！



4 学校段階等間の接続

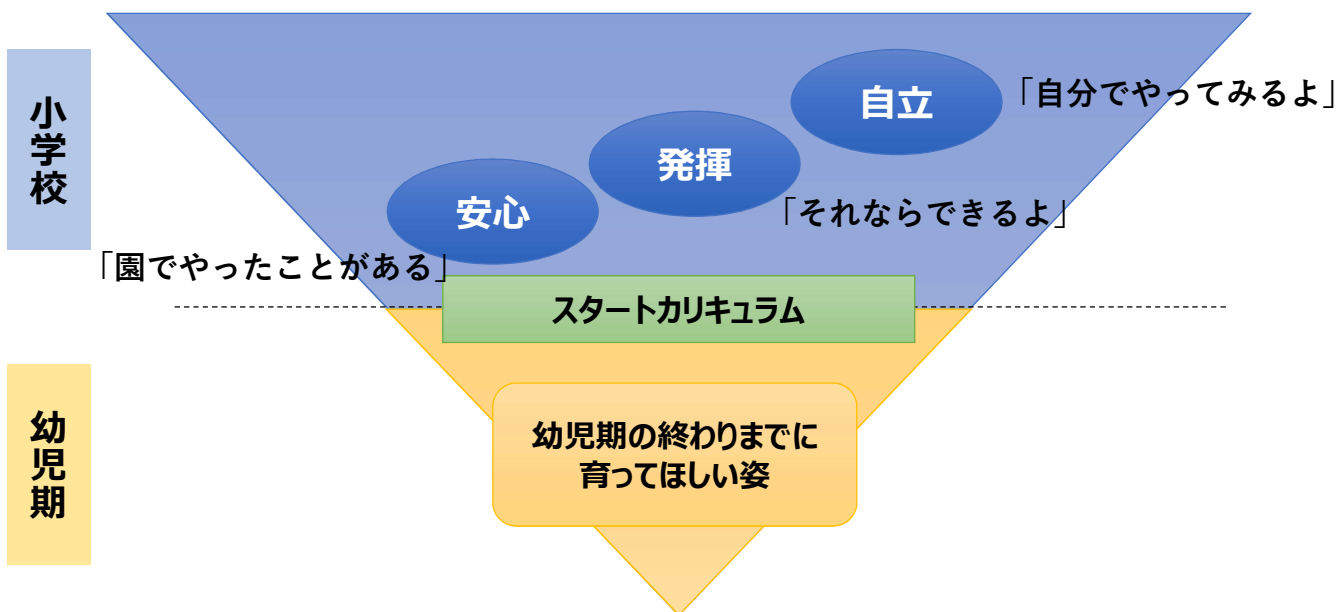
教育課程の編成に当たっては、次の事項に配慮しながら、**学校段階等間の接続を図るものとする。**

- (1) **幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。**また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続を図られるよう工夫すること。**特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。**

この規定は、全国全ての小学校で、生活科を中心にスタートカリキュラムを編成・実施しなければならない、ということを意味しています。スタートカリキュラムの「義務化」です。



入学に際して、不安と緊張に包まれた子どもたちに、学校が【安心】して生活できる場であることを感じ取らせるようにしましょう。
安心感をもった子どもは、主体的に自己を【発揮】するようになり、さらには自分自身で自分からやってみようと【自立】するようになります。
入学当初の子どもたちの学校生活をつくりだすために、【安心】【発揮】【自立】の理念をスタートカリキュラムという形に表し、実践していく必要があります。



合言葉は「ゼロからのスタートではない！」
「子どもってすごい！」
肯定的な子ども観で、スタートカリキュラムをデザインしていきましょう。

1 基本的な考え方



スタートカリキュラムをデザインする際には、次に示す基本的な考え方を学校全体で共通理解することが欠かせません。

スタートカリキュラムをデザインする基本的な考え方	
ポイント	主な内容
一人ひとりの児童の成長の姿からデザインする	<ul style="list-style-type: none"> ◇個人差を考慮したきめ細かい指導 ◇「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえるなど、幼児の発達や学びの様子を理解する
児童の発達の特徴を踏まえて、 時間割 や 学習活動 を工夫する	<ul style="list-style-type: none"> ◇入学当初の児童の発達の特徴やこの時期の学びの特徴を踏まえて、10分から15分程度の短い時間を活用して時間割を構成したり、具体的な活動の伴う学習活動を位置付けたりする ◇児童の意欲の高まりを大切にして、自らの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進めていけるように活動時間を設定する
生活科を中心に合科的・関連的な指導の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ◇自分との関わりを通して総合的に学ぶという、この時期の児童の発達の特徴を踏まえる ◇生活科を中心とした合科的・関連的な指導の充実を図ることが重要 ◇児童の意識の流れに配慮したつながりのある学習活動を進めるようにする
安心して自ら学びを広げていけるような 学習環境 を整える	<ul style="list-style-type: none"> ◇児童が安心感をもち、自分の力で学校生活を送ることができるよう学習環境を整えることが重要 ◇児童の実態を踏まえること、人間関係が豊かに広がること、学習のきっかけが生まれることなどの視点で、児童を取り巻く学習環境を見直す



スタートカリキュラムの「義務化」によって、どの学校でも・どの先生でも・どの年度でも、一定水準のスタートカリキュラムが実現される必要があります。
意図的・計画的・組織的な取組を進めるためにも、スタートカリキュラムの形が必要不可欠です。



スタートカリキュラム
スタートブック (H27.1)



発達や学びをつなぐ
スタートカリキュラム
(H30.3)

国立教育政策研究所から出されている
スタートカリキュラムに関する資料を参考に！

2 各学校で行うスタートカリキュラムのデザイン

- (1) 幼児の発達や学びを理解する
- (2) 期待する児童の姿を共有する
- (3) 単元の構成と配列、週の計画と時間配分を構想する

各学校においてスタートカリキュラムをデザインする際には、(1)～(3)の手順で進めることが考えられます。

スタートカリキュラムをデザインする手順

(1) 幼児の発達や学びを理解する

- 「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」を踏まえる
- 幼児の発達や学びの姿を把握する

(2) 期待する児童の姿を共有する

- スタートカリキュラムで**期待する児童の姿を明らかに**する
- 実施期間**を検討する

・実施期間は、各学校や子どもの実態に応じて柔軟に設定します。
・入学後2週間、1ヶ月、連休明けまで、5月末まで等、さまざまな事例があります。

(3) 単元の構成と配列、週の計画と時間配分を構想する

① 単元の構成と配列

期待する児童の姿に適合した単元を構成し配列する

幼児期の教育とのつながりや児童の発達の特性を踏まえ、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるよう、**生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫**を行う

全ての単元を配列し、俯瞰することができる**単元配列表**を作成する

② 週の計画と時間配分

単元計画に基づいた学習活動を週の計画として時間配分する

児童の発達の特性や学びの特徴を踏まえ、**短い時間で時間割を構成したり、ゆったりとした活動時間を位置付けるなど、弾力的な時間割の設定**の工夫を行う

実践に向けて具体化するために、**週案を作成**する



「入学当初の第1学年の週案をつくる」ことだけでは、スタートカリキュラムをデザインしたとは言えません。
上記(1)(2)と(3)の①を丁寧に考えていくことが重要です。



2 各学校で行うスタートカリキュラムのデザイン

(1) 幼児の発達や学びを理解する

「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」(10の姿)を踏まえ、子どもたちの具体的な育ちの姿を手がかりに、児童の成長を把握しながらカリキュラム・デザインを行います。

「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」を通して実際の幼児の姿について共通理解を図り、小学校へ入学した児童が安心して学校生活を送るとともに、自信をもって成長し、学習者として確かに歩んでいくことができるようにすることが望めます。そのためには、例えば**園への訪問や教職員との意見交換、幼稚園教育要領等を活用**するなど、幼児の発達や学びの様子や指導の在り方を把握することが重要です。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)



園などでの遊びや生活の中での子どもたちの姿を見取る際に、10の姿はとても役立ちます。遊びや生活の中で、子どもたちが何をどのように学んでいるかを見取る視点となります。(10の姿の説明は巻末の参考資料P17にあります)

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿とは？(Case1~19)

- 【Case1】カレーライスを作ろう [PDFファイル/1017KB]
- 【Case2】忍者をたおすぞ！ [PDFファイル/3.58MB]
- 【Case3】自分で育てるんだもん [PDFファイル/5MB]
- 【Case4】みんな楽しんでくれるかな [PDFファイル/586KB]
- 【Case5】本物みたいに食べる象 [PDFファイル/3月03日MB]
- 【Case6】カラスの子どもはどうなるの？ [PDFファイル/3.75MB]
- 【Case7】砂が残った、おれの勝ち！ [PDFファイル/703KB]
- 【Case8】本当にプールに入る？ [PDFファイル/2.67MB]
- 【Case9】ボーリングのレーンを作ろう！ [PDFファイル/601KB]
- 【Case10】からすのパンやさんに会いに行こう [PDFファイル/680KB]
- 【Case11】カブトムシの飼育 [PDFファイル/1.39MB]
- 【Case12】大根のわくわく収穫日！ [PDFファイル/3.39MB]
- 【Case13】ころころドッジボールの楽しいところはね、… [PDFファイル/618KB]
- 【Case14】段ボール箱が電車に変身！ [PDFファイル/601KB]
- 【Case15】Tくん手伝ってくれ！ [PDFファイル/1月26日MB]
- 【Case16】ほくのすごいよ！プラボー！ [PDFファイル/584KB]
- 【Case17】最後まで転がるかな？ [PDFファイル/593KB]
- 【Case18】「ありがと。」って言われたら [PDFファイル/527KB]
- 【Case19】Bくんも、乗りたいんだね [PDFファイル/568KB]

大分県幼児教育センターでは、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の具体的な事例をウェブサイトで公開しています。

園で見られる子どもの姿から、「10の姿」の育ちを読み解いていく手掛かりとなるよう、協力園での実践事例を公開しています。園での保育実践や指導計画作成、「10の姿」の理解のため、積極的に活用してください。

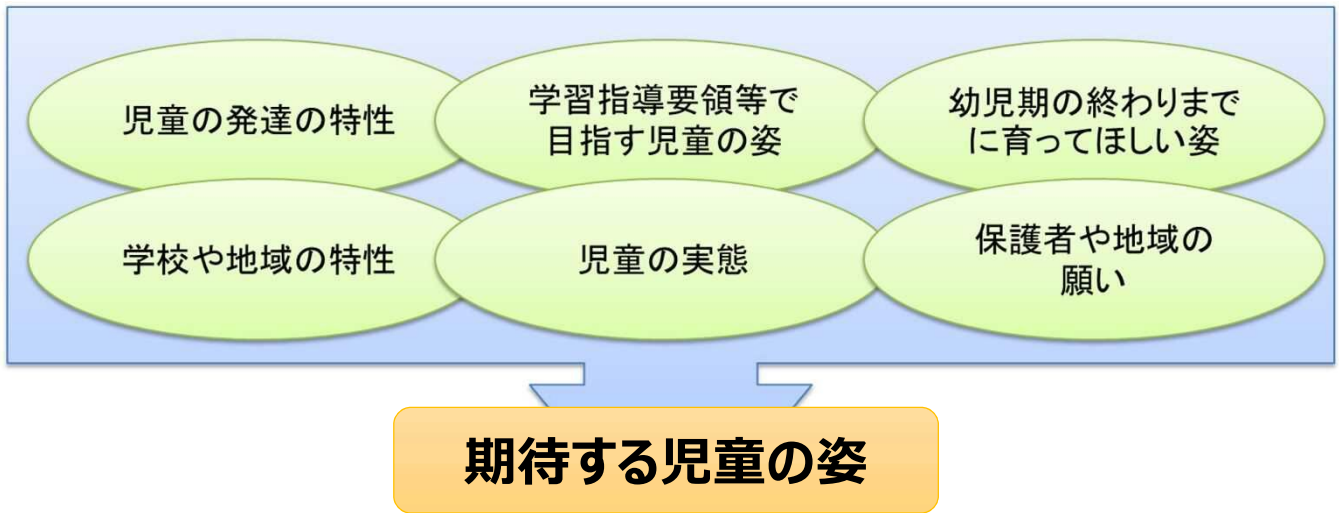
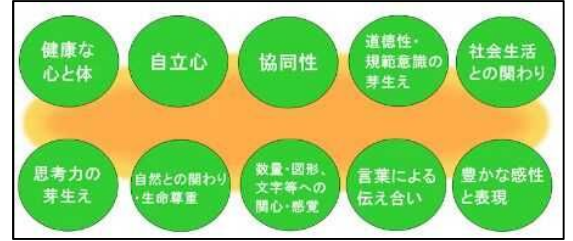
巻末の参考資料P18に、一部を掲載しています。詳細はウェブサイトからご覧ください。

<http://www.pref.oita.jp/site/oita-youjikyoku/juunosugata.html>

2 各学校で行うスタートカリキュラムのデザイン

(2) 期待する児童の姿を共有する

スタートカリキュラムは、児童の発達の特性和幼児期の発達を踏まえてデザインすることが重要です。スタートカリキュラムを通して一人一人が確かに成長することを目指し、期待する児童の姿を明らかにすることが不可欠です。



【中津市立三保小学校の例】

- ・安心して自分を発揮できる子ども
- ・学級や学校のルールを受け入れ、みんなと楽しく過ごせる子ども
- ・学習への興味・関心を持ち、意欲的に学習に取り組む子ども

週あたりのねらいの策定



期待する児童の姿については、小学校入学当初の教育課程全体を通して学校全体で育ていくための目標として、第1学年の担任だけでなく、**全教職員で検討する**とともに、**共通理解を図ることが大切**です。そのことが、**全教職員で協力体制**を組み、第1学年の児童を見守り育てることにつながります。

【スタートカリキュラムの実施期間を検討する】

例えば、

○入学後2週間程度 ○1ヶ月 ○GW明けまで ○5月末まで など、多様に想定することができます。

児童や各学校の実態を基に、期待する児童の姿を目指して、必要な期間を設定することが大切です。



2 各学校で行うスタートカリキュラムのデザイン



※管理職も含めて、みんなで書き込んでみましょう

【入学前の子どもの実態】（幼稚園等の情報、指導要録、合同研修での協議などから）

【保護者の願い】

【本校におけるスタートカリキュラム編成の基本姿勢】

発達や学びをつなぐ
スタートカリキュラム

スタートカリキュラムの活用方法

スタートカリキュラムの活用方法

スタートカリキュラムの活用方法

参考
P10

【スタートカリキュラムで目指す子どもの姿・・・●●する（できる）子ども】

-
-
-

【実施期間】

【特に重視する姿・・・（10の姿から）】

【週あたりのねらい】

第1週

第2週

第3週

第4週

第5週

2 各学校で行うスタートカリキュラムのデザイン


(3) 保護者へ説明する

新潟市では、スタートカリキュラムのねらい等について、保護者向けに説明する資料を作成しています。

令和〇年〇月〇〇日

新1学年の保護者の皆様へ

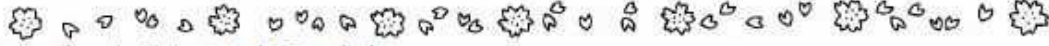
新潟市立〇〇小学校



みんな安心 〇〇小学校スタートカリキュラム


お子様のご入学、おめでとうございます。お子さんは、期待と同時にきっと不安も抱えていることでしょう。「お友達ができるかな?」「お勉強はできるかな?」という思いは保護者の皆様も同じかもしれません。

そんな不安や悩みを少しでも取り除き、新1年生が学校生活を楽しいと感じながら自己を発揮できることを願って、入学後ゴールデンウィーク前までは、「〇〇小学校スタートカリキュラム」に取り組みます。幼稚園や保育園、認定こども園と小学校との円滑な接続を目指した学校体制をとることにより、入学初期の子どもが安心感を高め、学校生活を楽しくしていくことができるように努めて参ります。



(1) ゆったりタイムを行います

引き出しへの物の入れ方の写真等を見ながら、自分の力で朝の支度をします。時間をゆったり取ることで、「自分でできた」という自信につなげます。支度が終わったお子さんから、折り紙やだるま落としといった自由遊びを行います。園での生活と同じ、自由遊びから1日をスタートさせることで、楽しさと安心感を感じることができます。




(2) なかよしタイムを行います

学年や学級で、歌、踊り、読み聞かせ等を行います。友達と一緒に体を動かす活動を楽しむことで、静の活動にも集中できるようになります。また、学年合同で行うことで、園から少人数で入学してきたお子さんも、友達と一緒に活動でき、安心感が生まれます。

(3) 体験を重視した学習を進めます

生活科を中心にして、国語や算数、音楽、図画工作、体育などの教科を合わせながら指導を行い、遊び中心で総合的な学びから教科等での学びへと、段階的に移行します。集中力が短い入門期の子どもに合わせ、短時間学習を導入します。



(4) 大勢の目で子どもを見守り支援します

学校職員や上級生とのかかわりの場を多く設定します。地域や保護者ボランティアからの支援もいただきます。大勢の人に迎えられる経験を積むことで、「学校には、優しい人がいっぱいいるな」「また明日も学校に行きたいな」という思いを育てていきます。また、担任一人ではなく、学年の担任がそれぞれの個性を生かしながら指導にあたります。

各学校がデザインしたスタートカリキュラムのねらいを丁寧に説明し、保護者の理解を得ることが大切です。

3 単元の構成と週案への位置付け



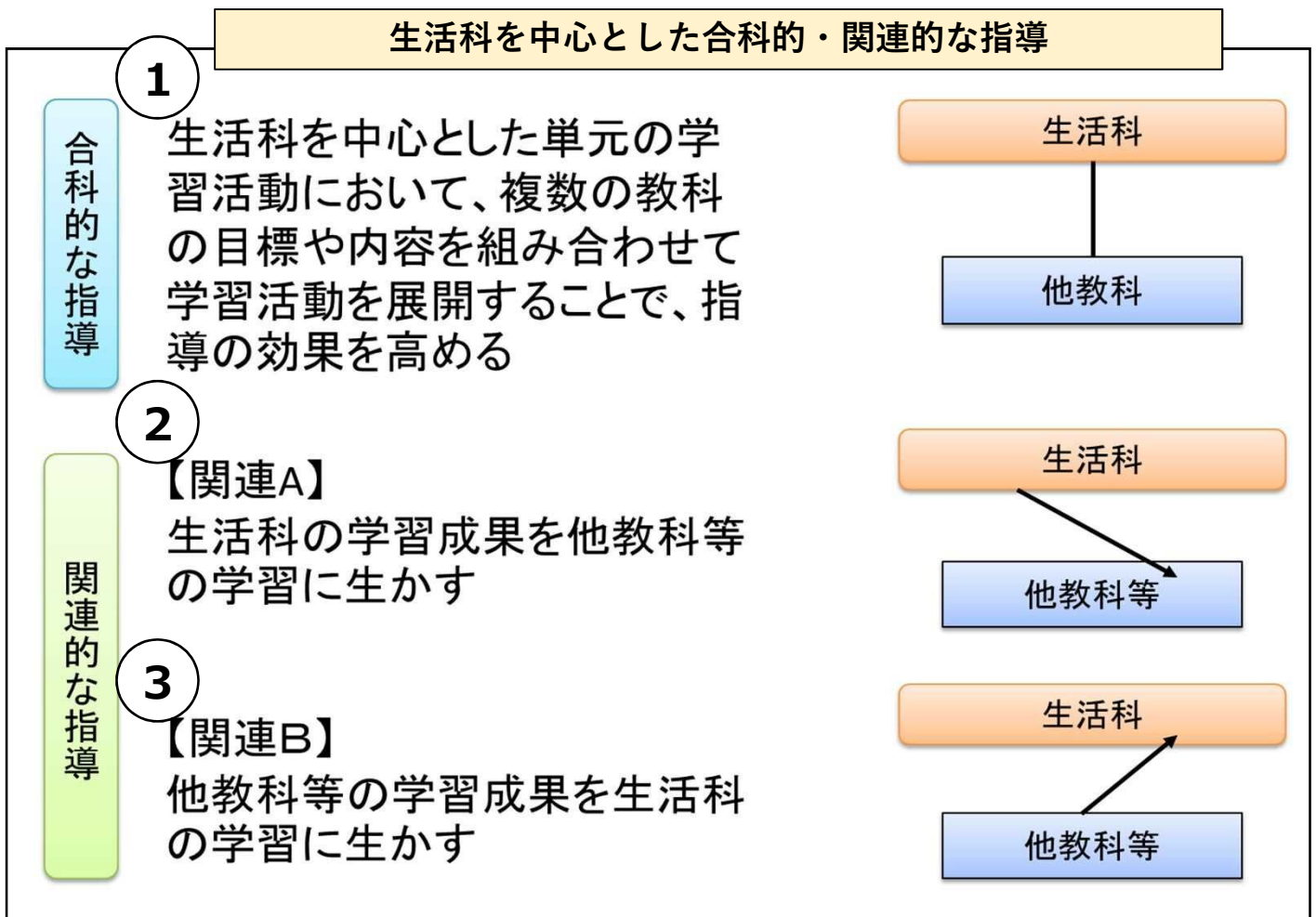
スタートカリキュラムを実施する期間全体を見通して、例えば、
○はじめの頃には、初めて出会った先生や友達と関わったりする学習活動を中心に行い、児童の安心感を高める。
○その後は、より自覚的な学びに向かうことを意識した単元を位置付けるなど、単元の構成や配列、指導の重点を考えることが重要です。

(1) 単元の構成と配列

スタートカリキュラムをデザインする際には、幼児期の発達や遊びを通した総合的な学びが小学校の学習や生活において発揮できるように、また、児童の思いや願いをきっかけとして始まる学びが自然に教科等の学習につながっていくように、単元の構成と配列を行うことが大切です。

単元の構成においては、**体験活動を取り入れる、友達との関わりを重視する、児童の意識の流れを大切に**するなどが考えられます。

単元の配列においては、**各教科等間のつながりを意識することが**大切です。そのため、**生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫が重要**です。



例えば、スタートカリキュラムの実施期間を1か月としたときに、**教育課程全体を俯瞰して、①②③が実現できそうな箇所を見つけて線をつないで**いきます。場合によっては、**単元の入れ替え**を行うこともあります。それを一覧にしたものが、**単元配列表**です。

単元配列表の作成へ

3 単元の構成と週案への位置付け

(2) 単元配列表の作成

単元配列表の例（→は関連的な指導、太線は合科的な指導）

各教科等	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
国語	こえをあわせて あいうえお				
	たのしい いちにち	わたしの なまえ	みつけてはなそう たのしくきこう	ことばを あつめよう	ほんを よもう▲
算数	ともだち	▲10までのかず	なんばんめ	いくつといくつ	
生活	がっこう だいすき ・がっこうたんけん				わたしのあさがお
音楽	うたっておどってなかよくなるう			はくをかんじとろう	
図画工作	すきなもののいっぱい	ねんどとなかよし	クレヨンやパスと なかよし		
体育	からだほぐし	てつぼうやゆうぐで あそぼう		おにあそび	
道徳	みんなでたのしく		あいさつでげんきに	がっこうたんけん	
特別活動	にゅうがくしき	1ねんせいをむかえるかい			
	たのしいきゆうしよく		おしごとたのしいな		

※佐伯地区の使用教科書を参考に作成しています。

【単元配列表作成のポイント】

- ①単に学習材や活動を関連付けるだけでなく、各教科等でどのような資質・能力を育成したいのかを意識する。
- ②児童の意識の流れを想定した上で、相互の関連について検討し位置付ける。
- ③合科的指導においては、関連した教科の目標が生活科の目標とともに実現されていくように意識する。
- ④線を引かすぎない！生活科との合科的・関連的な指導に絞って重点化する。精選することによって、実現可能性が高まる。



週の計画と時間配分（週案）の作成へ

3 単元の構成と週案への位置付け

(3) 週の計画と時間配分



小学校入学当初においては、幼児期の発達や学びを土台とし、児童が興味・関心をもったことを一人一人のペースで追究していけるような、ゆったりとした時間の流れの中で、少しずつ小学校での学習や生活に慣れていくようにするための工夫が求められます。
ポイントとなるのは、「**弾力的な時間割の設定**」です。

弾力的な時間割の設定例

学習指導要領解説生活編

例) ・登校してきたら朝の支度を済ませ、友達と誘い合って自由に遊べる時間とする

・朝の会から**1時間目を連続した時間**とし、幼児期に親しんできた遊びや活動を取り入れる

・友達と仲良く交流する活動を行う

・この時期の児童の発達の特性に配慮し、学びの特徴を踏まえて、**10分から15分程度の短い時間**で時間割を構成する

・児童が自らの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進めていけるように学習活動を**2時間続きで設定**する

など



☆スタートカリキュラムを実施する期間の週案に、上記のような活動を位置付ける

☆計画的・組織的な取組として学校全体で共通理解を図りながら進める

☆週案の作成は、前項で述べた単元配列表を、実践に向けて具体化するためにも必要

☆児童の成長の姿を評価しながら、それらを生かして週案を作成することはもとより、見直しを加えながら改善していくというカリキュラム・マネジメントの視点も必要

3 単元の構成と週案への位置付け

(3) 週の計画と時間配分

中津市立三保小学校では、スタートカリキュラムの週案を作成するとともに、子どもの様子や教師の指導、環境等についての気付きを書き加え、次年度の計画に生かしています。

〈第2週〉学校大好き はじめまして学校 (じぶんで できるようになろう)					
	16日(月)	17日(火)	18日(水)	19日(木)	20日(金)
8:30 朝の活動	登校したら荷物の整理・トイレ、席についてお絵かき・読書 なかよしタイム 歌・ゲーム・読み聞かせ 朝のあいさつと健康観察・1日の予定確認				
8:50 1校時	【国・生】 はじめて書く自分の名前 どうぞよろしく じこしようかい	【音・生】 歌を歌ってなかよく なろう	【生】 学校たんけん② もう一度たんけんし たいな	【生】 学校たんけん③ もう一度行って見 たい場所はどこか な	【音】 歌でなかよし 校歌
9:35					
9:40 2校時	【体・生】 探検に行く順に並ぼう 学校たんけん①	【体・算】 体操服に着替えよう じゅんぱん	【生・算】 校庭たんけん 遊具の使い方 10までの数		【図】 いろいろなかたち を作ってみよう
10:25					
10:45 3校時	学校にはどんなと ころがあるのかな	【生・図】 みなさん よろしく	【算】 かぞえて遊ぼう	【体】 ならびっこ 遊具で遊ぼう	【算】 かずとすうじ
11:30					
11:35 4校時	【学】 手を洗おう お盆に ナプキンをしく マ スクをして6年生が 準備するのをよく見 よう	【学】 みんなで給食の準 備をしよう	【国】 えんぴつの持ち方	【国】 えんぴつで線を書 こう	【国】 えんぴつで なぞろう
12:20					
給食時間	楽しい給食				
自問清掃	自分の場所をきれいにしよう				
14:05 5校時			【音】 手と手であいさつ	【算】 なかまをつくらう	参観授業 【国】
14:50					
下校指導	見送り指導	見送り指導			

〈第2週〉学校大好き はじめまして学校 (じぶんで できるようになろう)					
	16日(月)	17日(火)	18日(水)	19日(木)	20日(金)
8:30 朝の活動	登校したら荷物の整理・トイレ、席についてお絵かき・読書 なかよしタイム 健康観察・1日の予定確認				
8:50 1校時	【国・生】 はじめて書く自分の名前 どうぞよろしく じこしようかい	【音・生】 歌を歌ってなかよく なろう	【生】 学校たんけん② もう一度たんけんし たいな	【生】 学校たんけん③ もう一度行って見 たい場所はどこか な	【音】 歌でなかよし 校歌
9:35					
9:40 2校時	【体・生】 探検に行く順に並ぼう 学校たんけん①	【体・算】 体操服に着替えよう じゅんぱん	【生・算】 校庭たんけん 遊具の使い方 10までの数		【図】 いろいろなかたち を作ってみよう
10:25					
10:45 3校時	学校にはどんなと ころがあるのかな	【生・図】 みなさん よろしく	【算】 かぞえて遊ぼう	【算】 かぞえて遊ぼう	【算】 かずとすうじ
11:30					
11:35 4校時	【学】 手を洗おう お盆に ナプキンをしく マ スクをして6年生が 準備するのをよく見 よう	【学】 みんなで給食の準 備をしよう	【国】 えんぴつの持ち方	【国】 えんぴつで線を書 こう	【国】 えんぴつで なぞろう
12:20					
給食時間	楽しい給食				
自問清掃	自分の場所をきれいにしよう				
14:05 5校時			【音】 手と手であいさつ ちようちよ	【算】 なかまをつくらう	参観授業 【国】 えんぴつを持って 書いてみよう
14:50					
下校指導	見送り指導	見送り指導	一斉下校		

〈今週のねらい〉楽しく意欲的に学校生活を送ることができ、

学習活動

- ・「なかよしタイム」では、幼稚園で遊んだことと、学校を探検する生活科を中心とした活動を通して、学校の様子が分かり、楽しい気持ちで、登校したら、自分で荷物を片付けたら1日をスタートできるようにする。
- ・教室の後ろで、友だちと一緒に本を読んとして、低テーブルを準備する。

学習環境

- ・生活科と国語科の合科的な指導で、(自分の名前、自己紹介)を設定する。ま

合科的
関連的な
指導

- も「学校探検」と合科的に指導する。

令和3年度の
スタートカリキュラム(例)は
次頁以降に掲載しています。

3 単元の構成と週案への位置付け

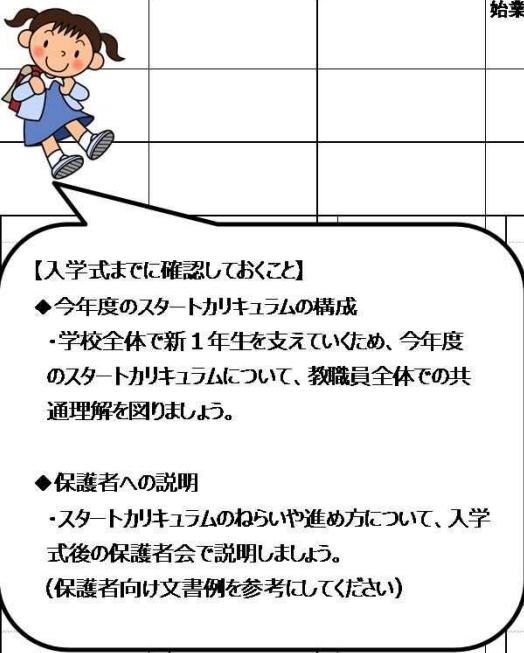
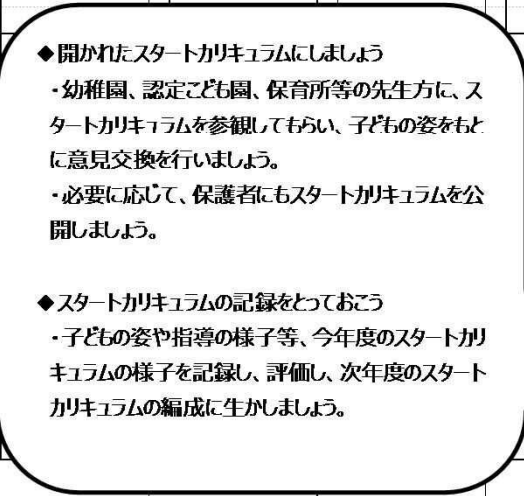
(4) 令和3年度の週の計画(例)

なかよしタイム(黄)・・・安心をつくる時間として、朝の会～1時間めに位置付けています。
 わくわくタイム(青)・・・生活科を中心とした合科的・関連的な時間です。
 ぐんぐんタイム(緑)・・・各教科等の学びを中心とした時間です。

令和3年度 ○○小学校スタートカリキュラム週案(案)

第1週 (4月5日～4月10日)

週のめあて(例) 1年生になった嬉しさを素直に感じ、大きくなった喜びを感じながら、学校で過ごすことができる。

月日 曜日	5日 月	6日 火	7日 水	8日 木	9日 金	10日 土		
よてい	 <p>【入学式までに確認しておくこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆今年度のスタートカリキュラムの構成 <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で新1年生を支えていくため、今年度のスタートカリキュラムについて、教職員全体での共通理解を図りましょう。 ◆保護者への説明 <ul style="list-style-type: none"> ・スタートカリキュラムのねらいや進め方について、入学式後の保護者会で説明しましょう。 (保護者向け文書例を参考にしてください) 			始業式				
もちもの								
朝の会								
1時間め								
2時間め								
中休み								
3時間め								
4時間め	 <ul style="list-style-type: none"> ◆開かれたスタートカリキュラムにしましょう <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、認定こども園、保育所等の先生方に、スタートカリキュラムを参観してもらい、子どもの姿をもとに意見交換を行いましょう。 ・必要に応じて、保護者にもスタートカリキュラムを公開しましょう。 ◆スタートカリキュラムの記録をとっておこう <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿や指導の様子等、今年度のスタートカリキュラムの様子を記録し、評価し、次年度のスタートカリキュラムの編成に生かしましょう。 							
きゅうしよく								
ひるやすみ								
そうじ								
5時間め								
帰りの会								
げこうじこく								
時数	国語	0.0	音楽	0.0	道徳	0.0		
	算数	0.0	図画工作	0.0	学級活動	0.0		
	生活	0.0	体育	0.0	学校行事	0.0		

第1週

令和3年度 ○○小学校スタートカリキュラム週案（案）

第2週

（4月12日～4月17日）

週のめあて(例) 1年生になった嬉しさを素直に感じ、大きくなった喜びを感じながら、学校で過ごすことができる。

月日	12日	13日	14日	15日	16日	17日
曜日	月	火	水	木	金	土
よてい	入学式	対面式	給食開始		歓迎遠足	
もちもの						
朝の会		なかよくなるう	なかよくなるう	なかよくなるう	なかよくなるう	
1時間め		・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・歌って踊ろう	・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・歌って踊ろう	・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・本がたくさん	※雨天時 ・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・本がたくさん	
2時間め	入学式	たのしいいちにち わたしのなまえ	みんなでのしく	さんすうの はじまり	さんすうの はじまり	
中休み						
3時間め	保護者会	対面式	がっこうだいすき がっこうのひみつ	がっこうだいすき がっこうたんけん	がっこうだいすき がっこうたんけん	
4時間め	下校	帰りの支度 下校指導	たのしいきゅうしよく	みつけてはなそう たのしくきこう	みつけてはなそう たのしくきこう	
きゅうしよく						
ひるやすみ						
そうじ						
5時間め			さんすうの はじまり	みつけた ゆうぐであそぼう	たのしいいちにち わたしのなまえ	
帰りの会	○中休み後に、わくわくタイムを位置付けるとともに、生活（体験）・国語（表現）を連続して位置付けています。					
げこうじこく						
時数	国語	6.0	音楽	0.7	道徳	1.0
	算数	3.0	図画工作	0.0	学級活動	2.0
	生活	3.0	体育	1.0	学校行事	2.0

第2週

令和3年度 ○○小学校スタートカリキュラム週案 (案)

第3週

(4月19日～4月24日)

週のめあて(例) 1年生になった嬉しさを素直に感じ、大きくなった喜びを感じながら、学校で過ごすことができる。

月日	19日	20日	21日	22日	23日	24日
曜日	月	火	水	木	金	土
よてい	学年始PTA		保護者面談①	保護者面談②	保護者面談③ 聴力検査(午後)	
もちもの						
朝の会	なかよくなるろう	なかよくなるろう	なかよくなるろう	なかよくなるろう	なかよくなるろう	
1時間め	・手遊び	・手遊び	・手遊び	・手遊び	・手遊び	
	国・お話読んで	国・お話読んで	国・お話読んで	国・お話読んで	国・お話読んで	
	国・お話聞いて	国・お話聞いて	国・お話聞いて	国・お話聞いて	国・お話聞いて	
	音音・歌って踊ろう	音音・歌って踊ろう	音音・歌って踊ろう	国・本がたくさん	国・本がたくさん	
2時間め	国 かいてみよう	国 かいてみよう	道 みんなでまもろう	生 がっこうだいすき	道 がっこうたんけん	
	国	国	道	生	道	
	国	国 めいしづくり	道	生 がっこうのはてなや	道	
	国	国	道	生 びっくりをみつけよう	道	
中休み						
3時間め	図 すきなもの	生 がっこうだいすき	生 がっこうだいすき	国	音 うたっておどって	
	図 いっぱい	生 がっこうのはてなや	生 がっこうのはてなや	国	音 なかよくなるろう	
	図	生 びっくりをみつけよう	生 びっくりをみつけよう	国	音	
	図	生	生	国	音	
4時間め	図 すきなもの	国	国	算	国	
	図 いっぱい	国	国	算	国	
	図	国	国	算	国	
	図	国	国	算	国	
きゆうしよく						
ひるやすみ						
そうじ						
5時間め	国 すきなものを	体 からだほぐしの	算	体 からだほぐしの	行	
	国 おともだちに	体 うんどう	算	体 うんどう	行	
	国	体	算	体	行	
	国	体	算	体	行	
帰りの会	○学校探検で見つけたものを題材に、算数等の学習を構成しています。 ○学校探検で使う名刺づくりなども、文字の学習と関連させ、位置付けています。					
げこうじこく						
時数	国語	9.3	音楽	2.0	道徳	2.0
	算数	2.0	図画工作	2.0	学級活動	0.0
	生活	3.0	体育	2.0	学校行事	1.0

なかよしタイム

わくわくタイム

第3週

令和3年度 ○○小学校スタートカリキュラム週案（案）

第4週

（4月26日～5月1日）

週のめあて(例) 学校生活に慣れ、学校や学級が大好きになり、明日も学校へ来たいと思うことができる。

月日	26日	27日	28日	29日	30日	1日
曜日	月	火	水	木	金	土
よてい	保護者面談④			昭和の日		
もちもの						
朝の会	なかよくなるう	なかよくなるう	なかよくなるう		なかよくなるう	
1時間め	・手遊び 国・お話読んで 国・お話聞いて 国・本がたたくさん 国	・手遊び 国・お話読んで 国・お話聞いて 音・歌って踊ろう 音	・手遊び 国・お話読んで 国・お話聞いて 国・本がたたくさん 国		・手遊び 国・お話読んで 国・お話聞いて 国・本がたたくさん 国	
2時間め	音うたっておどって 音なかよくなるう 音 音 音	算10までの数 算 算 算 算	算10までの数 算 算 算 算		算10までの数 算 算 算 算	
中休み						
3時間め	図クレヨンやパスと 図なかよし 図 図 図 図	生がっこうだいすき 生 生がっこうのはてなや 生 生びっくりをみつけよう 生 生	生がっこうだいすき 生 生がっこうのはてなや 生 生びっくりをみつけよう 生 生		国ことばをあつめよう 国 国	
4時間め	図クレヨンやパスと 図なかよし 図 図 図 図	国みつけたことを 国おともだちに 国つたえよう 国 国	国みつけたことを 国おともだちに 国つたえよう 国 国		学おしごとみつけ 学 学 学 学 学	
きゆうしよく						
ひるやすみ						
そうじ						
5時間め	算10までの数 算 算 算 算 算	国ことばをあつめよう 国 国 国 国 国	体てつぼうや 体ゆうぐで 体あそぼう 体 体		体てつぼうや 体ゆうぐで 体あそぼう 体 体	
帰りの会	○第3週から、ぐんぐんタイムの割合が増えていくようにしています。					
げこうじこく						
時数	国語	6.3	音楽	1.3	道徳	0.0
	算数	4.0	図画工作	2.0	学級活動	1.0
	生活	2.0	体育	2.0	学校行事	0.0

なかよしタイム

ぐんぐんタイム

わくわくタイム

ぐんぐんタイム

第4週

令和3年度 ○○小学校スタートカリキュラム週案（案）

第5週

(5月3日～5月8日)

週のめあて(例) 学校生活に慣れ、学校や学級が大好きになり、明日も学校へ来たいと思うことができる。

月日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	
曜日	月	火	水	木	金	土	
よてい	憲法記念日	みどりの日	こどもの日	歯科検診(午後)			
もちもの							
朝の会				なかよくなるう	なかよくなるう		
1時間め	<p>○各学校の実態に応じて、スタートカリキュラムの構成を工夫しましょう。</p>			・手遊び	・手遊び		
				国 国 国 国 音 音	・お話読んで ・お話聞いて ・本がたくさん	国 国 国 音 音	・お話読んで ・お話聞いて ・歌って踊ろう
2時間め	<p>○次ページに示した「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を手がかりにスタートカリキュラムの在り方を見直していくとともに、子どもたちが安心して自己発揮できるような場や環境の工夫も大切です。</p>			算 算 算 算 算 算	10までの数	国 国 国 国 国 国	ねこ、ねっこ
中休み							
3時間め				生 生 生 生 生 生	おおきなあれ (わたしのあさがお)	体 体 体 体 体 体	おにあそび
4時間め				国 国 国 国 国 国	ねこ、ねっこ	算 算 算 算 算 算	10までの数
きゆうしよく							
ひるやすみ							
そうじ							
5時間め				行 行 行 行 行 行	歯科検診	学 学 学 学 学 学	クラスのめあてをきめよう
帰りの会							
げこうじこく							
時数	国語	3.0	音楽	0.3	道徳	0.0	
	算数	2.0	図画工作	0.0	学級活動	1.0	
	生活	1.0	体育	1.0	学校行事	1.0	

4 参考資料



(1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）

健康な心と体	幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
言葉による伝え合い	先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

4 参考資料

(2) スタートカリキュラムのチェックリスト

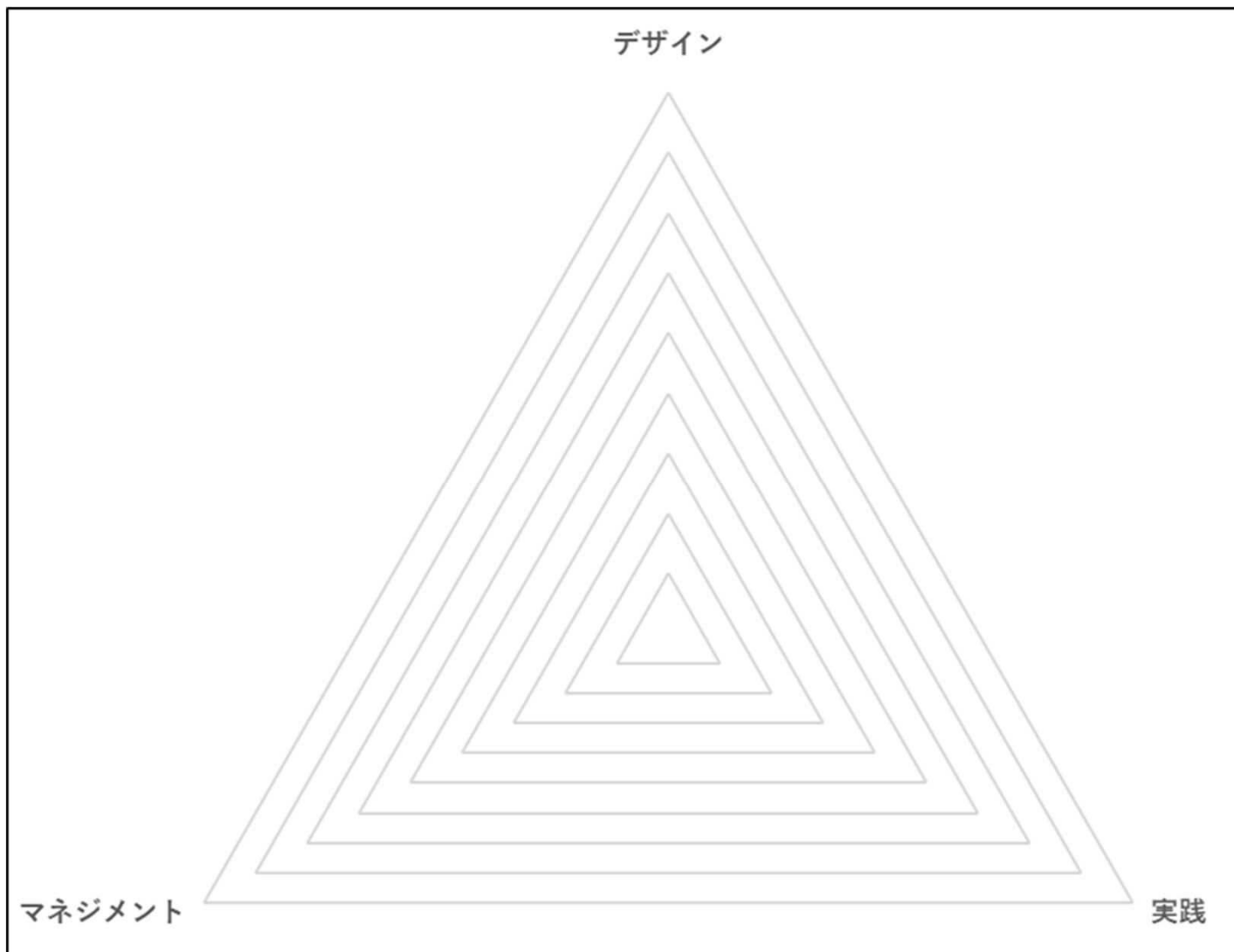
NO	関連P	内容	回答		
1	2	学習指導要領におけるスタートカリキュラムの位置付けを理解している	はい	いいえ	
2	11	入学してくる子どもたちの幼児期の実態を把握している	はい	いいえ	
3	4	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を学校全体で共通理解している	はい	いいえ	
デザイン	13	スタートカリキュラムの実施時期は			
		①入学後1週間 ②入学後2週間 ③入学後3週間 ④入学後1か月			
		⑤5月連休終了後まで ⑥入学～5月末 ⑦その他			
	4	13	スタートカリキュラムで期待する児童の姿を明確にしている	はい	いいえ
	5	15	生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫を行っている	はい	いいえ
	6	16	全ての単元を配列し俯瞰する単元配列表を作成している	はい	いいえ
	7	19	スタートカリキュラムの単元計画に基づいて週の計画を作成している	はい	いいえ
	8	19	弾力的な時間割の工夫をしている（短い時間、ゆったりとした時間）	はい	いいえ
	9	21	1日の学校生活を、児童中心にデザインしている	はい	いいえ
	実践	10	24	具体的な活動や体験を通して、生活上必要な習慣や技能が身に付くよう指導している	はい
11		34	子ども一人一人の経験の違いや園での活動の違いに留意して、体験活動を取り入れている	はい	いいえ
12		34	友達と触れ合ったり関わり合ったりするゲーム等、幼児期に親しんだ活動を取り入れている	はい	いいえ
13		35	教科学習の内容（単元）につながる幼児期の姿を意識して学習活動を展開している	はい	いいえ
14		34	学習活動に際して、児童が主体的に自己を発揮できる場面を意図的につくっている	はい	いいえ
15		50	子どもが安心感をもち、新しい人間関係を築くために、遊びや活動の特性を考慮している	はい	いいえ
16		50	1時間の中での遊びや活動の構成を考えて実践している	はい	いいえ
17		50	1週間の中での遊びや活動の連続性、発展性を考えて実践している	はい	いいえ
18		55	園と小学校の環境の違いに配慮し、掲示物や人的な環境構成を工夫している	はい	いいえ
マネジメント	19	60	スタートカリキュラムの意義や考え方、ねらいなどを全教職員で共通理解している	はい	いいえ
	20	60	スタートカリキュラムの意義やねらいを、保護者に説明している	はい	いいえ
	21	62	幼稚園等に訪問し、幼児や保育の様子を参観し、小学校での指導に生かしている	はい	いいえ
	22	62	幼稚園等の教職員と意見交換を行い、幼児の実態を把握しようとしている	はい	いいえ
	23	63	スタートカリキュラムを全教職員で協力体制を組み、実施している	はい	いいえ
	24	64	スタートカリキュラムの実施状況を全教職員で共有している	はい	いいえ
	25	66	幼稚園等の教職員や保護者に、スタートカリキュラムの様子を参観してもらっている	はい	いいえ
	26	66	毎週末や毎月の節目等に、スタートカリキュラムの反省、検証、改善を行っている	はい	いいえ
	27	67	週案等の資料をデータベース化し共有している	はい	いいえ



※「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム」

（平成30年3月 国立教育政策研究所）の関連ページを示しています。

全教職員で「はい」「いいえ」を回答し、「はい」の数を次のページの三角形に位置付け、できた形を比べてみましょう。



- 1 「はい」の数を三角形の頂点に点で示す
- 2 点を直線につなぐ
- 3 線をつないでできた三角形の形から、自校のスタカリの課題を見出す
- 4 各校のスタカリの工夫や取組状況を共有する



できた形を比べてみると、先生方のスタートカリキュラムに対する考え方や捉え方の違いが明確になります。
これを受けて、自校のスタートカリキュラムの編成や実施の在り方、指導の在り方について協議することが大切です。

4 参考資料

(3) 引用・参考資料

- 「小学校学習指導要領解説総則編」、2017（平成29）年7月、文部科学省
- 「小学校学習指導要領生活編」、2017（平成29）年7月、文部科学省
- 「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム」
2018（平成30）年3月、文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター
- 「スタートカリキュラムスタートブック」
2015（平成27）年1月、文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター
- 幼稚園教育要領解説、平成30年3月、文部科学省
- 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、平成30年3月、内閣府、文部科学省、厚生労働省
- 保育所保育指針解説、平成30年3月、厚生労働省
- 中津市立三保小学校 スタートカリキュラム
- 新潟市接続期カリキュラム
- NHK for School 「おばけの学校たんけんだん」
- NHK for School 「すたあと」
- 「小学1年スタートカリキュラム&活動アイデア」
2020（令和2）年3月、明治図書 松村英治、寶來生志子 著 嶋野道弘、田村学 監修

